

## にいがた摂食・嚥下サポート研究会 講演会報告

日 時：2010年5月14日（金） 18時30分～20時30分

場 所：新潟大学歯学部講堂

講演タイトル：摂食・嚥下協力医による病診連携診療システムと摂食・嚥下リハビリセンターにおける取り組み

講 師：石飛進吾先生（長崎大学病院 口腔ケア摂食・嚥下リハビリテーションセンター）

### 1. 参加者の特性

参加者は57名であった。参加者の職種および学内・外の別を下表に示す。学外からの参加者は32名（56.1%）、学内の参加者は25名（43.9%）であった。また、職種別では学生が最も多く、ついで歯科医師、企業であった。今回は、栄養士、薬剤師の参加はなかった。

表 参加者の特性 (人)

	歯科医師	歯科衛生士	看護師	ST	OT	企業	学生	教員	回答なし	計
学外	6	2	0	1	4	8	9	1	1	32
学内	2	3	1	4	0	0	8	1	6	25
計	8	5	1	5	4	8	17	3	6	57

### 2. アンケート解析結果

#### 1) アンケート回答者の特性

参加者57名のうち、アンケートに回答した者は31名（54.4%）であった。

回答者の特性は、性別では男性11名（回答者の35.5%）、女性19名（61.3%）、記載なし1名（3.2%）であった。また、年齢は20歳以下が1名（3.2%）、21～40歳が22名（71.0%）、41～60歳が8名（25.8%）であった。職業別にみると、医療関係者が16名（51.6%）で、学生15名（48.4%）となっていた。

#### 2) 講演会の感想

「今回の講演会はいかがでしたか」という設問に対し、「大変良かった」「良かった」「普通」「あまり良くなかった」という4段階の選択肢による回答を得た。

「大変良かった」と回答したのは16名（51.6%）、「良かった」と回答したのは14名（45.2%）、記載なし1名（3.2%）で、「普通」「あまり良くなかった」と回答した者はいなかった。

#### 3) 講演会への参加希望

「またこのような講演会に参加したいと思いますか」という設問に対し、「是非出席したい」「都合がつけば出席したい」「あまり興味がない」という3段階の選択肢での回答を得た。

「是非出席したい」と回答したのは19名（61.3%）、「都合がつけば出席したい」と回答したのは12名（38.7%）で、「あまり興味がない」と答えた者はいなかった。

#### 4) 自由筆記

「連携の重要性を改めて認識した」（4名）、「非常に参考になった」（3名）という意見が多かった。また、医療関係者の充足と、リタイヤしている歯科衛生士の活用が課題としてあげられていた（1名）。「リハビリはエンドレス」という考え方が参考になったという意見もあった（1名）。

講演会の時間帯については、現状の金曜日の夕方（2名）を希望する者がある一方、土日にしてほしいという意見（1名）もあった。